

放射線防護

－設備の高経年化対策に伴う被ばく線量評価－



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.202

経年劣化への対策のために追加で実施することになる点検などの保守作業によって、作業員の被ばく線量に変化はあるのか。

第25回ワーキング
(2023.10.4) で議論

ワーキングチーム検証結果

施設の経年劣化による作業現場の放射線環境に変化はないが、追加で実施することになる点検や工事により総被ばく線量が増加することが予想されること、これらの作業についても、厳密な工程の管理などにより被ばく低減対策に継続的に取り組んでいくことを確認。

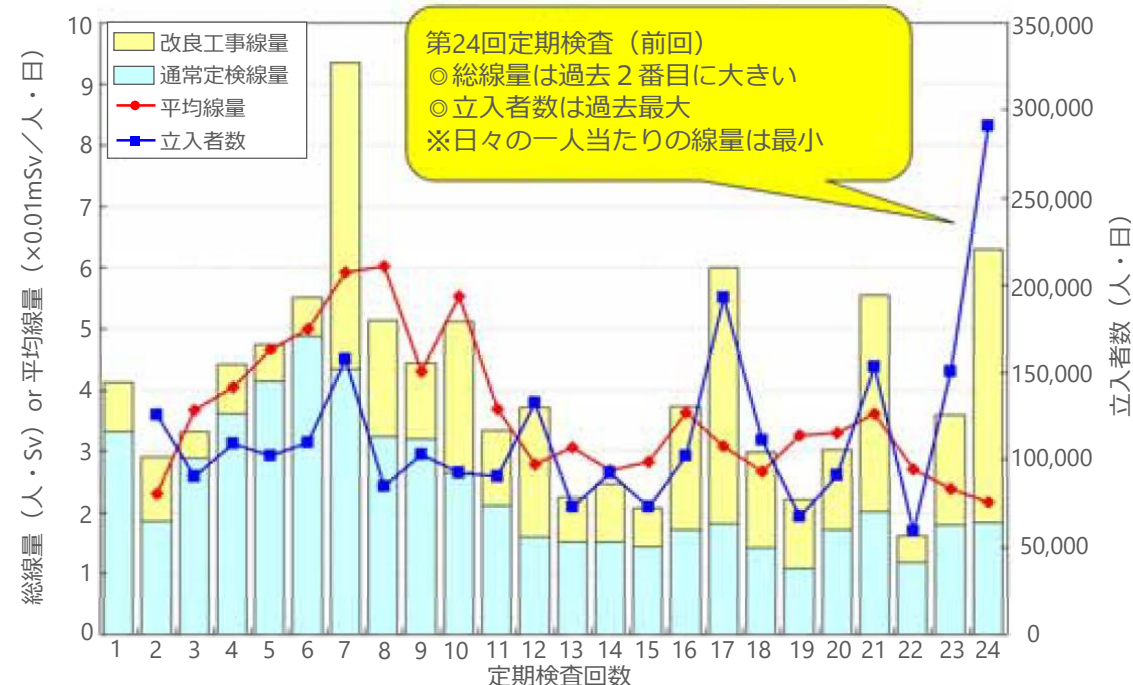
ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○東海第二発電所における被ばく線量の状況

- ・ 運転期間延長認可申請に当たって実施したコンクリート遮への特別点検や劣化評価結果より、**運転期間の延長に起因して放射線環境が大きく変化することはない**と考えられる。
- ・ 作業員の被ばく線量は、定期検査（定検）ごとに実施する工事の規模（作業内容、作業量）に依存する。
- ・ 施設の定期検査に加え、運転期間の延長に伴い追加で実施する点検や工事などによる作業量の増加により、今後、総被ばく線量は増加することも予想される。

新たに追加で実施する作業についても、以下のような活動を通して、被ばく低減対策に継続的に取り組んでいく。

- ・ 他プラントにおける被ばく線量低減の好事例等の反映
- ・ 作業検討段階における作業現場の把握や作業工程の厳密な管理
- ・ 作業中の作業現場の監視や被ばく実績の綿密な管理
- ・ 被ばく低減意識の啓発



東海第二発電所の定期検査における被ばく線量推移